

第101回定例研究会

3月20日(金)

於:静岡県評会議室

現代の若者の意識と行動、 そして組織化に向けての課題

報告者: 中澤 秀一 氏 (静岡県立大学短期大学部 准教授)

はじめに

20代男性の65.9%、20代女性の75.2%が「現在の生活に満足している」。過去40年間で最高に満足度が高い。そのいっぽうで、「悩みや不安がある」と答えた20代は1980年代後半に40%を切っていたのが、2010年には63.1%に増加している。

大学生の労働組合イメージに関するアンケート調査

労組に対して否定的な評価をしている学生は少数派であり、イメージ自体は悪くない。ただし、「面倒くさそう」「頼もしい」は、プラスとマイナスが拮抗している。

若手組合員聞き取り調査

「どういう組合なら同僚に紹介したいか」という質問に対し、「同年代が加入していると、加入しやすい」という意見のほか、「若者は組合に関心がないわけではないと思う。賃上げで実績をあげるとか、成功例があると魅力的になるのではないか」「具体的な成果を見せられれば、紹介できるし、もっと加入するだろうと思う」「楽しい組合、職場以外の人と交流できるならもっと集まる」「自分たちが置かれている状況を説明するべき」などの意見があった。

若者の組織化に向けて

最近の若者の組織化で成功した事例から見える共通項は次の点がある。

職場に核となるキーパーソンがいること

職場にリーダー的なキーパーソンがおり、彼らの声掛けに対して、周りの若者がついていくという図式がある。

既存の組合による外からの援助

ただ、組合活動に関する専門的知識には乏しいので、それをカバーする的確なアドバイスが必要だった。

おわりに

教育機関は、学生に企業に「適応」することは教えるが、企業に「抵抗」することは教えてこなかった。労働組合の知識を「大学の授業」から得ている割合は、社会科学系学部の学生でも3~4割程度にすぎない。組合はもっと大学生(若者)に接近するべきではないか。

これからの企画

春のシンポジウム

「アベノミクスの働き方と働く者の戦略」

- ・日時...4月25日(土)
- ・会場...静岡労政会館

現代労働負担研究会 in 静岡

- ・日時...5月30日(土)
- ・会場...静岡労政会館

第102回定例研究会

- ・日時...6月10日(水)
- ・会場...静岡県評会議室